

---

# 公民的分野 研究提案

---

## 公民的分野における基本的な考え

昨今、日本では年金や格差の問題が大きくクローズアップされている。少子高齢化や経済のグローバル化が進む中で、今後人々の生活や権利をどう維持・向上させていくのか、その方法がなかなか見つからない状況である。また、世界に目を移せば、地球温暖化の問題が従来以上に深刻かつ身近な問題となってきた。日本としても、解決に向けて国際社会に対し早急に働きかけを行う必要があるが、どんな方法がよいのか模索しているところである。このように現代社会では、対応が早急に迫られているものの、解決が困難な問題がいくつも起こっている。しかも、これらの社会問題は生徒自身が将来に向けて、真剣にその解決の道筋を考えなければならないものばかりである。

こうした時代に、公民的分野の学習でめざす共生社会とは、年金や資源エネルギー問題のように、だれもが解決の必要を認めながらも、立場の違いにより意見が対立している問題の解決に向けて、互いの主張に耳を傾け、それぞれの見方や考え方を持ち寄りながら解決に努力しようとする社会である。

そこで共生社会を実現するために、共創を育む公民的分野の授業づくりを以下のように具現化したいと考えた。現代の社会問題について、何が問題解決を妨げているのかを各自で考えさせる。次に、それぞれの意見を出し合い、問題のとらえ方や解決の方策について異なる考えがあることをつかませる。さらに各立場の間で、どんな条件を出し合えば合意することができるのかを考えさせる。そして、将来にわたって人々が安心して生活できる社会制度・環境づくりをどのように構築していくとよいのかを模索させていく。

こうした考えに基づいた授業を繰り返し行うことによって、現代社会が抱える問題を自分の問題としてとらえ、見方や考え方の違いを乗り越え、共に生きる社会の実現に向け、社会の形成者として自分の生き方を問い続ける生徒が育成できると考える。

## 公民的分野における授業づくり

### 1 教材化の要件

#### 【要件1】 自然や社会とのかかわりがとらえやすい

将来にわたって安心して生活できるための手だて・方策を考えながら、問題解決にあたって生徒が積極的にかかわろうとするような事象を教材化する。その中で、食料自給問題や年金問題など、自然環境や社会環境にかかわる、今日早急に解決が求められている問題を取り上げる。

#### 【要件2】 人間の生き方とのつながりが追究しやすい

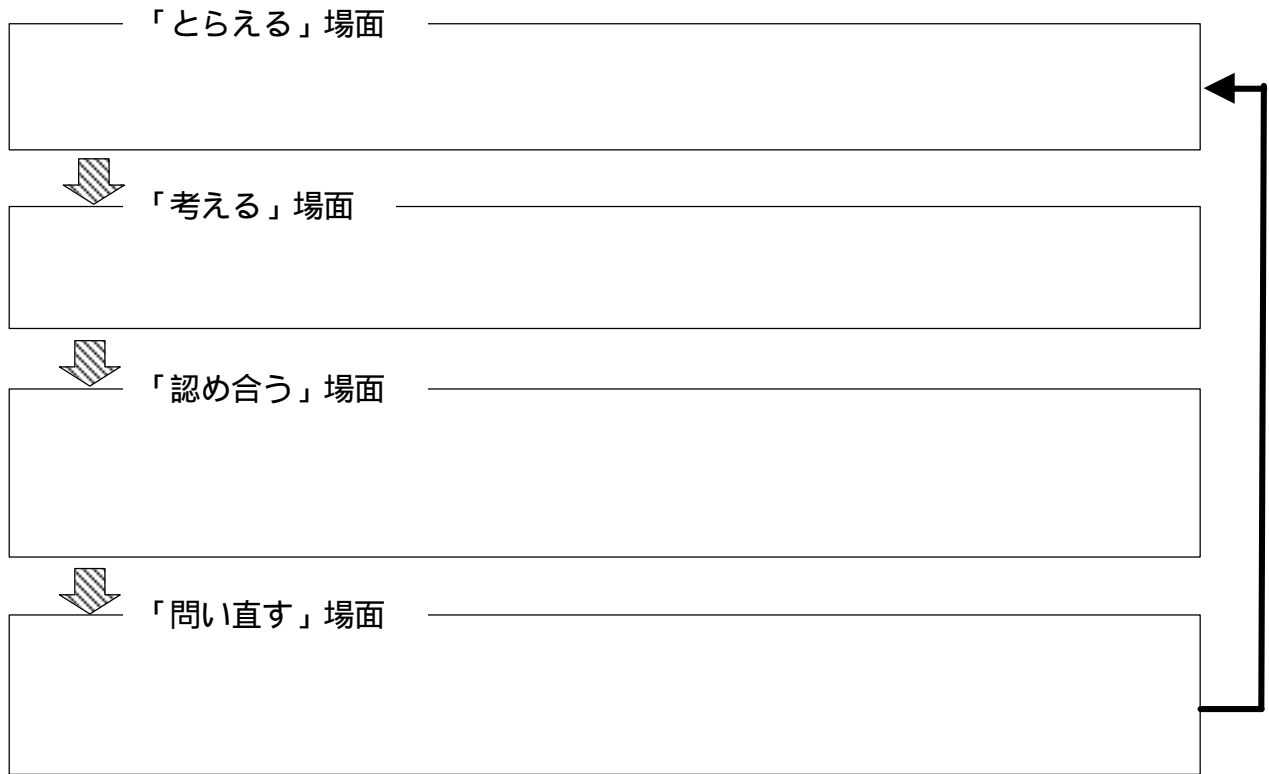
解決を目指す人々の営み・苦勞をつかみ、社会を構成する一人の人間としてどう生きるかを考えていくことができるような事象を教材化する。その中で、人権・環境など今日的な社会問題の解決に向けて取り組む人間の姿を取り上げる。

#### 【要件3】 見方や考え方、思いや願いがゆさぶられやすい

総論としては意見が一致していても、具体的な対応となると解決に向けて立場や考えの違いから合意するのが難しい事象を教材化する。その中で、資源エネルギー問題のように、これまでの今日的問題に対する自分の見方や考え方をゆさぶり、解決に向けたかかわり方を考えていくことができる事例を取り上げる。

## 2 公民的分野における単元構成

公民的分野の学習では、現代社会が抱える今日的な社会問題の解決に向けて、考え、行動しようとする生徒を育成する。そのために、次のような「とらえる」「考える」「認め合う」「問い直す」の4場面から成る単元を構成し、各授業を展開する。



## 3 「認め合う」場面と「問い直す」場面における学習活動の工夫

### (1) 合意形成を図る話し合い活動の工夫（「認め合う」場面）

人権・環境をはじめとする現代社会が抱える今日的な社会問題の解決に向けた自分の考えを基に、他の生徒と意見を交換させる。そして、異なる考えの根拠に目を向け、違う立場であっても問題に対する共通する思いがあることに気付かせ、実現可能な解決策を探らせるために、次のような話し合い活動の工夫をする。

問題にかかわる人たちの助言・指摘を受け、グループの意見が社会の実情に合ったものとなるよう考えを深める話し合い活動

論点を整理する中で、より多くの立場から理解が得られるような問題解決策を探し出し、新たなプランづくりに取り組む話し合い活動

### (2) 共に生きる社会のあり方を考え続ける学習活動の工夫（「問い直す」場面）

合意形成できなかった点を合意に近付けるためには、各立場がどんな歩み寄りをする必要があるかを話し合わせる。そして、実際に問題に直面している人々にとって作成した解決案が納得できるものとなっているか見直しをさせるとともに、社会の問題を自分にかかわる問題としてとらえ、改善に向けて働きかけようとする社会参画の意識を高めさせるために、次のような学習活動の工夫をする。

異なる立場が合意するための条件の確認や、合意できない点についてどのような意見調整が行われれば意見が集約できるかを考える学習活動

自分たちが練り上げた問題解決策を社会に提案するなど、問題解決に向けて実際にどんな働きかけができるのかを考える学習活動

## 1 単 元 国民生活と福祉

### 2 単元について

これまでわが国では、国民皆年金の制度や介護保険制度など、福祉の向上を図るためのしくみが整えられてきた。これらの社会保障制度は、私たちが安心して生活を送るために重要な役割を果たしているにもかかわらず、問題点が大きく報道されてきたこともあり、制度自体を否定的に考える者も少なくない。

本単元では、年金問題を教材として取り上げ、様々な立場の声を聞きながらその改善策を追究させる。この活動を通して、様々な資料を適切に収集、選択して事実を正確につかみ、財源の確保と配分など国や地方公共団体が果たしている経済的な役割をとらえる。さらに、少子高齢化を踏まえた今後の社会保障制度のあり方について、自らがかわる問題として考えることができるようにする。

### 3 本単元で扱う教材

#### (1) 教 材 年金問題

#### (2) 教材の意義

年金制度の改正が大きく報道されるようになり、生徒の関心は高まっている。また、国民年金保険料の納付が20歳から始まるため、そのしくみを理解させることが急務である。

年金問題がよく議論されるようになった現在、この問題は、生徒の見方や考え方、思いや願いがゆさぶられやすい教材として取り上げることができる。また、国民年金制度について、財源の確保という視点から考えるとともに、この制度の理念である相互扶助の考え方を学び、少子高齢化を踏まえ社会保障制度のあり方を考えることにより、個人と社会とのかかわりを理解することができる。さらに、共によりよく生きるための新たな方策を創り出すことにもつながり、人間の生き方を問い続ける上で意義深い。

### 4 目 標

国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割を理解することができる。 (知識・理解)

国民年金制度のあり方について、他の考えと比較し、財源の確保や少子高齢化への対応という視点から考えることができる。 (思考・判断)

わが国の社会保障制度のあり方について、だれもが安心して生活することができる社会を目指して、個人と社会とのかかわりを踏まえて考えることができる。

(思考・判断)

5 指導計画（7時間完了）

主な学習活動	場面	指導上の留意点
<p>〔第1時〕 年金に関する問題を知る。 映像資料から「消えた年金問題」について知り、年金で生活する高齢者の生活に関心をもつ。 保険料納付率の資料から、国民年金の未納率の高さをとらえる。</p> <p>〔第2時〕 国民年金をはじめとしたわが国の社会保障制度や税のしくみをとらえる。</p> <p>〔第3時〕 国民年金のしくみを知る。 愛知社会保険事務局職員から現在の国民年金のしくみを聞く。</p> <p>〔第4時〕 国民年金制度に対する高齢世代や現役世代の思いを知る。 身近な高齢世代・現役世代に聞き取り調査を行う。 聞き取り調査の内容を発表し合い、国民年金制度に対して様々な立場や考えがあることに気付く。</p> <p>〔第5時〕 高齢世代・現役世代の立場に分かれて、現在の国民年金制度について話し合う。 各立場に立って国民年金制度の改善策を考える。</p> <p>〔第6時〕 <b>本時</b> 高齢世代・現役世代の各立場から国民年金制度の改善策を発表し、その内容について話し合う。 同じ立場の生徒同士で考えた改善策を発表する。 発表された改善策について、それぞれの立場から意見を出す。 国民年金制度に対する立場を越えた共通する思いと制度を維持・発展させるための課題を確認する。 話し合いの中から立場を越えた共通する思いに気づき、課題を確認する。 これまでの話し合いを踏まえ、課題をどのように解決すべきか話し合う。</p> <p>〔第7時〕 国民年金制度にこだわらない高齢者福祉のあり方を考える。 諸外国の社会保障制度についてつかむ。 日本で現状の国民年金制度がなかったとしたら、どんな方策が必要かを考える。 日本で国民年金制度が始まった社会的背景を考える。 だれもが安心して生活できる社会をつくるためにどうすべきかを考える。</p>	<p>とらえる</p> <p>考える</p> <p>認める</p> <p>話し合う</p> <p>問い直す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>65歳になった時の自分の家族構成、就業状況を考え、収入・支出を予想させる。</li> <li>現在の65歳以上の就業率の資料を提示する。</li> <li>現行の年金制度のあらましをとらえさせ、現役世代の納付を基に高齢者への年金が支払われているシステムに気付かせる。</li> <li>憲法第25条の生存権を基に、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生といった社会保障制度が整備されていることをつかませる。</li> <li>国民年金のしくみの具体例をはじめ、世代間扶養の考え方などについてつかませる。</li> <li>諸外国の年金制度についても簡単に触れる。</li> <li>現行の年金制度に対する考え、経済的不安、医療費や突然の出費など、高齢世代や現役世代の声を聞き取らせ、発表させる。</li> <li>ワーキングプアとよばれる人々の実態を提示し、保険料を払えない状況を理解させる。</li> <li>聞き取り調査の内容が偏っていた場合、様々な立場や考えをまとめた補充資料を配布する。</li> <li>同じ立場の生徒同士でグループ編成し、国民年金制度のメリット・デメリットについて話し合わせる。</li> <li>メリット・デメリットを踏まえ、国民年金制度の改善策を考えさせる。</li> <li>各立場のグループの代表者に国民年金制度の改善策を発表させ、立場による考えの違いを明らかにさせる。</li> <li>相手の立場の改善策を聞き、納得できる点、納得できない点を明らかにさせながら話し合わせる。</li> <li>立場は異なっても、だれもが安心して生活できるように願っていることに気付かせる。</li> <li>制度を維持・発展させるためには、財源の確保や少子高齢化への対応が大きな課題であることをとらえさせる。</li> <li>話し合うグループを変更することで、改善策に対する認識を深め、解決が簡単ではないことを理解させる。</li> <li>アメリカの社会保障制度の背景や、皆年金ではないしくみのメリット・デメリットを考えさせる。</li> <li>諸外国の社会保障制度の資料から、すべての人が安心して生活するために必要なしくみを考えさせる。</li> <li>国民年金制度発足時の背景や高齢者の思いをとらえさせる。</li> <li>高齢者福祉の問題に対し、自分たちの将来にかかわる問題として目を向けさせる。</li> </ul>

予 想 さ れ る 生 徒 の 意 識

問題の意識化

自分が年をとってからの生活なんて考えたことなかった。  
65歳になっても多くの人が働いているんだね。  
国民年金は毎月66,000円しかもらえないんだ。  
年をとったら年金だけで生活できると思っていた。  
年金未納者が多いのはなぜだろう。

現状分析

年金は、高齢者を現役世代が支える制度なんだ。  
年金以外にも、いろいろな社会保障制度があるんだ。  
社会保障の財源として、いろいろな税が使われているんだ。  
みんなが納めた年金保険料に国の援助が加わって老後に年金としてもらえるんだ。

25年間も保険料を納めないと受給資格がないんだ。

国によって年金のしくみが違うんだね。

聞き取りによる資料収集

年金だけでは生活が苦しいんだって。  
学生も保険料を毎月14,000円ずつ納めなければいけないから、結構大変なんだ。  
国民年金の保険料を払わない人が増えているから、国民年金の制度がなくなるかもしれない。  
払いたくても払えない人も増えているんだ。

問題の焦点化と考えの構築

高齢世代にとっては、一生涯の保障はありがたいだろうけど、受給金額が少なくて年金だけでは生活できないよ。  
現役世代にとっては、払い損にはならないらしいけど、少子高齢化が進むから負担が増えてしまいそうだ。

各立場の主張による話し合い

満額で月額66,000円では高齢世代は生活できないので、受給額をアップするべきだ。

受給額を上げるための財源はどのようにするのか？少子高齢化が進んでいるので、高齢世代への給付金額を減らすべきだ。

高齢世代を支えていくことは当然のことだ。高齢世代を支えるために、現役世代の保険料を増やすべきだ。

どうしても払えない人もいる。未納者の生活をどのように保障するのか？

解決策を作成するための話し合い

各立場の考えは異なっているけど、国民全体が安心できる老後を過ごせるようにしたいと思っているんだ。

少子高齢化が進むので、課題は財源をどうするかだね。

消費税を上げ、国民年金の財源とする。ただし、国民生活に大きく影響する食料品等は課税対象外とする。

一定の給付金額を保障しながら、高所得高齢者の受給額を減らし、その分低所得高齢者の受給額を増やせばいい。

考えの再構築

まじめに保険料を納めてきた人とそうでない人に違いができるのは当然。自己責任の部分を残してもよいのでは？

すべてを自己責任にするのは無理があると思う。

年金は大切だけど、それ以外に高齢者が生活しやすくなるようなしくみはないのかな。

高齢者の医療費を無料にすれば、生活しやすくなる。

国民皆年金の制度は、核家族化への対応を目指したんだ。

働ける場所を増やすことなど、高齢者にとって大切なのはお金だけじゃないんだ。

問題解決に対する認識の高まり

年金制度を維持するためには、少子高齢化についてもっと考え、社会保障制度全体を見直す必要がある。

高齢者福祉の問題は、人ごとではなく自分のことなんだ。  
高齢社会に向けて、自分に何ができるか考えていきたい。

自分が年をとったらどんな生活をしているのだろう。  
年金未納者が増えているんだ。

国民の生活を守るために、税を使うなどして、年金をはじめとしたいろいろな制度が作られているんだ。

国民年金制度は必要だけど、立場によっていろいろ問題とする点が異なっているんだ。

国民年金制度のメリット・デメリットをよく考えて改善策を考える必要があるんだ。

高齢世代の立場と現役世代の立場で、同じ国民年金の問題を考えても、解決策が全く異なってしまうんだ。

高齢世代はもちろん、現役世代も安心して老後を過ごせるようにしたいと願っている。財源の確保するためには、高齢世代にも現役世代にも相応の負担が必要だ。

国民年金制度は、高齢世代の経済的支援のために作られたんだ。でも、お金だけでない支援も重要なんだ。

高齢者福祉の問題は、自分たちの将来にかかわる問題なんだ。  
社会の一員として、社会全体で社会保障を考えていきたい。

だれもが安心して生活できる社会をつくるには、どうすればよいのだろうか？

6 本時の指導 ( 6 / 7 時 )

- (1) 目 標 国民年金制度のあり方について，他の考えと比較し，財源の確保や少  
 (2) 学習過程

時間配分	学 習 活 動	教 師 の 活 動
5分	1 前時までの学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に高齢世代・現役世代に分かれて話し合った国民年金制度のメリット・デメリットについて確認させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">国民年金制度を維持・発展させるために，どのように改善すればよいだろう</div>		
15分	2 高齢世代・現役世代の各立場から国民年金制度の改善策を発表し，その内容について話し合う。 (1) 改善策を発表する。  (2) 発表された改善策について，それぞれの立場に立って話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場ごとに色分けした札を胸につけさせておく。</li> <li>前時に同じ立場の4人グループで考えた国民年金制度の改善策をホワイトボードに箇条書きの形で記入させ，グループの代表者にポイントを発表させる。</li> <li>各グループから出された改善策の共通点を各立場ごとにまとめ，立場による考えの違いを明らかにさせる。</li> <li>相手の立場の改善策で納得できる点，できない点を明らかにさせながら話し合わせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">国民年金制度に対する立場を越えた共通する思いは何だろう</div>		
10分	3 国民年金制度に対する立場を越えた共通する思いと制度を維持・発展させるための課題を確認する。 (1) 国民年金制度に対する立場を越えた共通する思いを確認する。  (2) 国民年金制度を維持・発展させるための課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>立場は異なっても，だれもが安心して生活できるように願っていることに気付かせる。</li> <li>財源の確保や少子高齢化への対応が大きな課題であることをとらえさせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">課題をどのように解決すべきだろう</div>		
20分	4 これまでの話し合いを踏まえ，課題をどのように解決すべきか話し合う。 (1) 国民年金制度を維持・発展させるための課題の解決策について話し合う。  (2) グループで話し合った内容を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢世代・現役世代の各立場2人ずつの計4人グループを事前に編制しておき，これまでの話し合いの内容を踏まえて話し合わせる。</li> <li>課題の克服と共通する思いの実現を目指すための解決策を考えさせる。</li> <li>国民年金制度の維持・発展に向けた財源の確保や少子高齢化への対応以外に，幸福な老後のあり方やその方策に話が及んだグループの内容も取り上げ，次時につなげる。</li> </ul>

子高齢化への対応という視点から考えることができる。

予想される生徒の意識		評価場面				
<p>1 前時までの学習内容の確認 【国民年金制度のメリット・デメリットは……】</p> <table border="1"> <tr> <td>高齢世代</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>一生涯保障してもらえらる。</li> <li>現役世代に支えてもらえらる。</li> <li>受給額が少なくして生活が困難。</li> <li>制度が複雑でわかりにくい。</li> </ul> </td> <td>現役世代</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>払い損にならない。</li> <li>将来的には支えてもらえらる。</li> <li>少子高齢化による負担増。</li> <li>25年納めないと受給できない。</li> </ul> </td> </tr> </table>		高齢世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>一生涯保障してもらえらる。</li> <li>現役世代に支えてもらえらる。</li> <li>受給額が少なくして生活が困難。</li> <li>制度が複雑でわかりにくい。</li> </ul>	現役世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>払い損にならない。</li> <li>将来的には支えてもらえらる。</li> <li>少子高齢化による負担増。</li> <li>25年納めないと受給できない。</li> </ul>	
高齢世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>一生涯保障してもらえらる。</li> <li>現役世代に支えてもらえらる。</li> <li>受給額が少なくして生活が困難。</li> <li>制度が複雑でわかりにくい。</li> </ul>	現役世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>払い損にならない。</li> <li>将来的には支えてもらえらる。</li> <li>少子高齢化による負担増。</li> <li>25年納めないと受給できない。</li> </ul>			
<p>2 国民年金制度の改善策についての発表と話し合い 【各立場からの改善策は……】</p> <table border="1"> <tr> <td>高齢世代</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>満額で月額66,000円では生活できないので、受給額を増やす。</li> <li>高齢世代を支える制度なので、現役世代の保険料を増やす。</li> <li>未納者が多いとしくみが成り立たないので、未納率が減少するような徴収システムをつくる。</li> </ul> </td> <td rowspan="2"> <p>【改善策に対して……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受給額を上げるための財源はどうするのか？</li> <li>現在の高齢世代は、納付額に比べて受給額が多すぎるのでは？</li> <li>払いたくても払えない未納者の生活をどのように保障していくのか？</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>現役世代</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生は、月額14,000円を支払うのは大変なので、納付を免除する。</li> <li>少子高齢化が進んでいるので、高齢世代への給付金額を減らす。</li> <li>25年納めないと受給できないのは厳しいので、もっと短い納付期間でも受給できるようにする。</li> </ul> </td> </tr> </table>		高齢世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>満額で月額66,000円では生活できないので、受給額を増やす。</li> <li>高齢世代を支える制度なので、現役世代の保険料を増やす。</li> <li>未納者が多いとしくみが成り立たないので、未納率が減少するような徴収システムをつくる。</li> </ul>	<p>【改善策に対して……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受給額を上げるための財源はどうするのか？</li> <li>現在の高齢世代は、納付額に比べて受給額が多すぎるのでは？</li> <li>払いたくても払えない未納者の生活をどのように保障していくのか？</li> </ul>	現役世代	
高齢世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>満額で月額66,000円では生活できないので、受給額を増やす。</li> <li>高齢世代を支える制度なので、現役世代の保険料を増やす。</li> <li>未納者が多いとしくみが成り立たないので、未納率が減少するような徴収システムをつくる。</li> </ul>	<p>【改善策に対して……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受給額を上げるための財源はどうするのか？</li> <li>現在の高齢世代は、納付額に比べて受給額が多すぎるのでは？</li> <li>払いたくても払えない未納者の生活をどのように保障していくのか？</li> </ul>				
現役世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生は、月額14,000円を支払うのは大変なので、納付を免除する。</li> <li>少子高齢化が進んでいるので、高齢世代への給付金額を減らす。</li> <li>25年納めないと受給できないのは厳しいので、もっと短い納付期間でも受給できるようにする。</li> </ul>					
<p>3 共通する思いと課題の確認</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>【共通する思いは……】 安心して生活したい。</p> <p>【課題は……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財源の確保</li> <li>少子高齢化への対応</li> </ul> </td> <td> <p>今後さらに進む少子高齢化も考えに入れながら、何とかして財源の確保をし、高齢世代はもちろん、現役世代も安心して生活できるように、国民全体で真剣に考えなければならない。</p> </td> </tr> </table>		<p>【共通する思いは……】 安心して生活したい。</p> <p>【課題は……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財源の確保</li> <li>少子高齢化への対応</li> </ul>	<p>今後さらに進む少子高齢化も考えに入れながら、何とかして財源の確保をし、高齢世代はもちろん、現役世代も安心して生活できるように、国民全体で真剣に考えなければならない。</p>			
<p>【共通する思いは……】 安心して生活したい。</p> <p>【課題は……】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財源の確保</li> <li>少子高齢化への対応</li> </ul>	<p>今後さらに進む少子高齢化も考えに入れながら、何とかして財源の確保をし、高齢世代はもちろん、現役世代も安心して生活できるように、国民全体で真剣に考えなければならない。</p>					
<p>4 課題についての話し合い 【安心できる老後のために……】</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費税を上げ、国民年金の財源とする。ただし、国民生活に大きく影響する食料品等は課税対象外とする。</li> <li>消費税だけでなく、高所得者・企業を中心に所得税率や法人税率も上げて財源を確保する。</li> <li>一定の給付金額を保障しながら、高所得高齢者の受給額を減らし、その分低所得高齢者の受給額を増やす。</li> <li>少子化対策として、子育て支援策を充実させる。</li> <li>自分で責任をもって老後に備える努力も必要。</li> <li>高齢者が年金に頼らなくても生活できるような雇用制度を整える。</li> </ul> </td> <td>評価場面</td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> <li>消費税を上げ、国民年金の財源とする。ただし、国民生活に大きく影響する食料品等は課税対象外とする。</li> <li>消費税だけでなく、高所得者・企業を中心に所得税率や法人税率も上げて財源を確保する。</li> <li>一定の給付金額を保障しながら、高所得高齢者の受給額を減らし、その分低所得高齢者の受給額を増やす。</li> <li>少子化対策として、子育て支援策を充実させる。</li> <li>自分で責任をもって老後に備える努力も必要。</li> <li>高齢者が年金に頼らなくても生活できるような雇用制度を整える。</li> </ul>	評価場面			
<ul style="list-style-type: none"> <li>消費税を上げ、国民年金の財源とする。ただし、国民生活に大きく影響する食料品等は課税対象外とする。</li> <li>消費税だけでなく、高所得者・企業を中心に所得税率や法人税率も上げて財源を確保する。</li> <li>一定の給付金額を保障しながら、高所得高齢者の受給額を減らし、その分低所得高齢者の受給額を増やす。</li> <li>少子化対策として、子育て支援策を充実させる。</li> <li>自分で責任をもって老後に備える努力も必要。</li> <li>高齢者が年金に頼らなくても生活できるような雇用制度を整える。</li> </ul>	評価場面					

### (3) 評価の観点と方法

評価の観点	評価の場面と方法	学 習 活 動 に お け る 評 価 規 準
思考 ・ 判断	話し合いでの発言内容やプリントへの記述から分析	国民年金制度のあり方について、他の考えと比較し、財源の確保や少子高齢化への対応という視点から考えることができる。

## 7 資 料

### 公的年金制度の変遷

年 代	主 な 年 金 制 度 改 革
1942(昭和17)	労働者年金保険法の発足
1944(昭和19)	厚生年金保険法に改称，女子の適用
1954(昭和29)	厚生年金保険法の全面改定
1961(昭和36)	国民年金法の全面施行（国民皆年金）
1965(昭和40)	夫婦1万円年金の実現
1969(昭和44)	夫婦2万円年金の実現
1973(昭和48)	夫婦5万円年金の実現，物価スライド制の導入
1982(昭和57)	被保険者の資格にかかわる国籍要件の撤廃
1986(昭和61)	基礎年金制度の導入，専業主婦の適用（任意から強制へ）
1991(平成3)	学生の適用（任意から強制へ）
1994(平成6)	厚生年金（定額部分）支給開始年齢の引き上げ
1997(平成9)	各年金制度共通の基礎年金番号の導入
2000(平成12)	三共済（JR，JT，NTT共済）を厚生年金に統合 年金額改定方式の変更（物価スライドのみで改訂） 保険料免除制度の改正
2002(平成14)	農林共済を厚生年金に統合
2004(平成16)	給付と負担の見直し ・保険料水準の引き上げ 2017(平成29)年以降の保険料水準を固定し，段階的に引き上げる ・国庫負担割合の引き上げ 2009(平成21)年までに現行の3分の1から2分の1に引き上げる ・積立金の活用 概ね100年間で財政均衡を図る ・マクロ経済スライドの導入 被保険者数の減少などに応じて給付水準を調整する
2007(平成19)	社会保険庁改革関連法可決 2010(平成22)年に社会保険庁を廃止し，「日本年金機構」を設立する

## 1 単 元 国民生活と福祉

## 2 単元について

これまでわが国では、国民皆年金の制度や介護保険制度など、福祉の向上を図るためのしくみが整えられてきた。これらの社会保障制度は、私たちが安心して生活を送るために重要な役割を果たしているにもかかわらず、問題点が大きく報道されてきたこともあり、制度自体を否定的に考える者も少なくない。

本単元では、年金問題を教材として取り上げ、様々な立場の声を聞きながらその改善策を追究させる。この活動を通して、様々な資料を適切に収集、選択して事実を正確につかみ、財源の確保と配分など国や地方公共団体が果たしている経済的な役割をとらえる。さらに、少子高齢化を踏まえた今後の社会保障制度のあり方について、自らがかわる問題として考えることができるようにする。

## 3 本単元で扱う教材

## (1) 教 材 年金問題

## (2) 教材の意義

年金制度の改正が大きく報道されるようになり、生徒の関心は高まっている。また、国民年金保険料の納付が20歳から始まるため、そのしくみを理解させることが急務である。

年金問題がよく議論されるようになった現在、この問題は、生徒の見方や考え方、思いや願いがゆさぶられやすい教材として取り上げることができる。また、国民年金制度について、財源の確保という視点から考えるとともに、この制度の理念である相互扶助の考え方を学び、少子高齢化を踏まえ社会保障制度のあり方を考えることにより、個人と社会とのかかわりを理解することができる。さらに、共によりよく生きるための新たな方策を創り出すことにもつながり、人間の生き方を問い続ける上で意義深い。

## 4 目 標

国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割を理解することができる。 (知識・理解)

国民年金制度のあり方について、他の考えと比較し、財源の確保や少子高齢化への対応という視点から考えることができる。 (思考・判断)

わが国の社会保障制度のあり方について、だれもが安心して生活することができる社会を目指して、個人と社会とのかかわりを踏まえて考えることができる。

(思考・判断)

5 指導計画（7時間完了）

主な学習活動	場面	指導上の留意点
<p>〔第1時〕 年金に関する問題を知る。 映像資料から「消えた年金問題」について知り、年金で生活する高齢者の生活に関心をもつ。 保険料納付率の資料から、国民年金の未納率の高さをとらえる。</p>	とらえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 65歳になった時の自分の家族構成、就業状況を考え、収入・支出を予想させる。</li> <li>・ 現在の65歳以上の就業率の資料を提示する。</li> <li>・ 現行の年金制度のあらましをとらえさせ、現役世代の納付を基に高齢者への年金が支払われているシステムに気付かせる。</li> </ul>
<p>〔第2時〕 国民年金をはじめとしたわが国の社会保障制度や税のしくみをとらえる。</p>	る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 憲法第25条の生存権を基に、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生といった社会保障制度が整備されていることをつかませる。</li> </ul>
<p>〔第3時〕 国民年金のしくみを知る。 愛知社会保険事務局職員から現在の国民年金のしくみを聞く。</p>	考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国民年金のしくみの具体例をはじめ、世代間扶養の考え方などについてつかませる。</li> <li>・ 諸外国の年金制度についても簡単に触れる。</li> </ul>
<p>〔第4時〕 国民年金制度に対する高齢世代や現役世代の思いを知る。 身近な高齢世代・現役世代に聞き取り調査を行う。 聞き取り調査の内容を発表し合い、国民年金制度に対して様々な立場や考えがあることに気付く。</p>	えらる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の年金制度に対する考え、経済的不安、医療費や突然の出費など、高齢世代や現役世代の声を聞き取らせ、発表させる。</li> <li>・ ワーキングプアとよばれる人々の実態を提示し、保険料を払えない状況を理解させる。</li> <li>・ 聞き取り調査の内容が偏っていた場合、様々な立場や考えをまとめた補充資料を配布する。</li> </ul>
<p>〔第5時〕 高齢世代・現役世代の立場に分かれて、現在の国民年金制度について話し合う。 各立場に立って国民年金制度の改善策を考える。</p>	う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ立場の生徒同士でグループ編成し、国民年金制度のメリット・デメリットについて話し合わせる。</li> <li>・ メリット・デメリットを踏まえ、国民年金制度の改善策を考えさせる。</li> </ul>
<p>〔第6時〕 高齢世代・現役世代の各立場から国民年金制度の改善策を発表し、その内容について話し合う。 同じ立場の生徒同士で考えた改善策を発表する。 発表された改善策について、それぞれの立場から意見を出す。 国民年金制度に対する立場を越えた共通する思いと制度を維持・発展させるための課題を確認する。 話し合いの中から立場を越えた共通する思いに気付く、課題を確認する。 これまでの話し合いを踏まえ、課題をどのように解決すべきか話し合う。</p>	認め合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各立場のグループの代表者に国民年金制度の改善策を発表させ、立場による考えの違いを明らかにさせる。</li> <li>・ 相手の立場の改善策を聞き、納得できる点、納得できない点を明らかにさせながら話し合わせる。</li> <li>・ 立場は異なっても、だれもが安心して生活できるように願っていることに気付かせる。</li> <li>・ 制度を維持・発展させるためには、財源の確保や少子高齢化への対応が大きな課題であることをとらえさせる。</li> <li>・ 話し合うグループを変更することで、改善策に対する認識を深め、解決が簡単ではないことを理解させる。</li> </ul>
<p>〔第7時〕 <b>本時</b> 国民年金制度にこだわらない高齢者福祉のあり方を考える。 諸外国の社会保障制度についてつかむ。 日本で現状の国民年金制度がなかったとしたら、どんな方策が必要かを考える。 日本で国民年金制度が始まった社会的背景を考える。 だれもが安心して生活できる社会をつくるためにどうすべきかを考える。</p>	問い直す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アメリカの社会保障制度の背景や、皆年金ではないしくみのメリット・デメリットを考えさせる。</li> <li>・ 諸外国の社会保障制度の資料から、すべての人が安心して生活するために必要なしくみを考えさせる。</li> <li>・ 国民年金制度発足時の背景や高齢者の思いをとらえさせる。</li> <li>・ 高齢者福祉の問題に対し、自分たちの将来にかかわる問題として目を向けさせる。</li> </ul>

予 想 さ れ る 生 徒 の 意 識

問題の意識化

自分が年をとってからの生活なんて考えたことなかった。  
65歳になっても多くの人働いているんだね。  
国民年金は毎月66,000円しかもらえないんだ。  
年をとったら年金だけで生活できると思っていた。  
年金未納者が多いのはなぜだろう。

現状分析

年金は、高齢者を現役世代が支える制度なんだ。  
年金以外にも、いろいろな社会保障制度があるんだ。  
社会保障の財源として、いろいろな税が使われているんだ。  
みんなが納めた年金保険料に国の援助が加わって老後に年金としてもらえるんだ。

25年間も保険料を納めないと受給資格がないんだ。

国によって年金のしくみが違うんだね。

聞き取りによる資料収集

年金だけでは生活が苦しいんだって。  
学生も保険料を毎月14,000円ずつ納めなければいけないから、結構大変なんだ。

国民年金の保険料を払わない人が増えているから、国民年金の制度がなくなるかもしれない。

払いたくても払えない人も増えているんだ。

問題の焦点化と考えの構築

高齢世代にとっては、一生涯の保障はありがたいだろうけど、受給金額が少なくて年金だけでは生活できないよ。

現役世代にとっては、払い損にはならないらしいけど、少子高齢化が進むから負担が増えてしまいそうだ。

各立場の主張による話し合い

満額で月額66,000円では高齢世代は生活できないので、受給額をアップするべきだ。

受給額を上げるための財源はどうするのか？少子高齢化が進んでいるので、高齢世代への給付金額を減らすべきだ。

高齢世代を支えていくことは当然のことだ。高齢世代を支えるために、現役世代の保険料を増やすべきだ。

どうしても払えない人もいる。未納者の生活をどのように保障するのか？

解決策を作成するための話し合い

各立場の考えは異なっているけど、国民全体が安心できる老後を過ごせるようにしたいと思っているんだ。

少子高齢化が進むので、課題は財源をどうするかだね。

消費税を上げ、国民年金の財源とする。ただし、国民生活に大きく影響する食料品等は課税対象外とする。

一定の給付金額を保障しながら、高所得高齢者の受給額を減らし、その分低所得高齢者の受給額を増やせばいい。

考えの再構築

まじめに保険料を納めてきた人とそうでない人に違いができるのは当然。自己責任の部分を残してもよいのでは？

すべてを自己責任にするのは無理があると思う。

年金は大切だけど、それ以外に高齢者が生活しやすくなるようなしくみはないのかな。

高齢者の医療費を無料にすれば、生活しやすくなる。

国民皆年金の制度は、核家族化への対応を目指したんだ。

働ける場所を増やすことなど、高齢者にとって大切なのはお金だけじゃないんだ。

問題解決に対する認識の高まり

年金制度を維持するためには、少子高齢化についてもっと考え、社会保障制度全体を見直す必要がある。

高齢者福祉の問題は、人ごとではなく自分のことなんだ。

高齢社会に向けて、自分に何ができるか考えていきたい。

自分が年をとったらどんな生活をしているのだろう。  
年金未納者が増えているんだ。

国民の生活を守るために、税を使うなどして、年金をはじめとしたいろいろな制度が作られているんだ。

国民年金制度は必要だけど、立場によっていろいろ問題とする点が異なっているんだ。

国民年金制度のメリット・デメリットをよく考えて改善策を考える必要があるんだ。

高齢世代の立場と現役世代の立場で、同じ国民年金の問題を考えても、解決策が全く異なってしまうんだ。

高齢世代はもちろん、現役世代も安心して老後を過ごせるようにしたいと願っている。財源の確保するためには、高齢世代にも現役世代にも相応の負担が必要だ。

国民年金制度は、高齢世代の経済的支援のために作られたんだ。でも、お金だけでない支援も重要なんだ。

高齢者福祉の問題は、自分たちの将来にかかわる問題なんだ。  
社会の一員として、社会全体で社会保障を考えていきたい。

だれもが安心して生活できる社会をつくるには、どうすればよいのだろうか？

6 本時の指導 ( 7 / 7 時 )

- (1) 目 標 ・国民の生活と福祉の向上を図るために，国や地方公共団体が果たして  
 ・わが国の社会保障制度のあり方について，だれもが安心して生活する
- (2) 学習過程

時間配分	学 習 活 動	教 師 の 活 動
3分	1 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの話し合いで，意見が分かれた点について確認させる。</li> </ul>
	現在の国民年金制度の維持にこだわらない高齢者福祉のあり方を考えてみよう	
12分	2 皆年金としての国民年金制度を今後も維持すべきか考える。 (1) ロールプレイングにより，アメリカの社会保障の概要について確認し，自己責任が重視されている現状をとらえる。  (2) 日本で皆年金のしくみがなかった場合，高齢者が困らないようにする方策を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2人で一つのグループを編制しておく。</li> <li>様々な国の社会保障に関する資料から，アメリカと日本の社会保障制度について比較し，そのメリット・デメリットを考えさせる。</li> <li>皆年金としての国民年金制度は本当に必要かどうかを考えさせ，皆年金のしくみがない場合，どのような方策が必要かを，配布した資料を基にして話し合わせる。</li> </ul>
	高齢者にとって安心して生活できる社会とは何だろう	
20分	3 国民年金制度が始まった理由や時代背景を再確認し，高齢者にとって安心できる社会について考える。 (1) 日本で国民年金制度が始まった経緯や国民皆年金とした理由を，資料で確認する。  (2) 高齢者の方のビデオレターから安心して生活できる社会に対する高齢者の思いを知る。  (3) 今後の日本が目指すべき高齢者が安心して生活できるしくみについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1961年の国民年金制度実施時，1986年の20歳以上加入義務化時の社会情勢を確認させる。</li> <li>高齢者と現役世代の相互扶助の精神が制度の根幹として位置付けられてきたことを確認させる。</li> <li>高齢者が安心して生活していくために求めていることが，経済的な部分だけではないことに気付かせる。</li> <li>今後の国民年金制度のあり方を含め，高齢者が安心して生活できるようにするためにはどのような方策が必要かをまとめさせる。</li> <li>高齢者にとって安心できる社会制度を築くことは，すべての人たちの生活の安定にもつながることに気付かせる。</li> </ul>
	だれもが安心して生活できる社会をつくるためにどうすべきかを考えよう	
15分	4 だれもが安心して生活できる社会をつくるためにどうすべきかを考える。 (1) 社会保障制度のあり方を考える場合，どのようなことについて考える必要があるかをまとめる。  (2) だれもが安心して生活できる社会をつくるためにどうすべきかをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの授業から，社会保障制度のあり方を考える際に必要な視点を振り返らせる。</li> <li>生徒の考えを発表させ，高齢者にとって安心できる社会制度を築くことは，すべての人たちの生活の安定にもつながることを確認させる。</li> <li>だれもが安心して生活できるようにするための自分の役割を考えさせる。</li> </ul>

いる役割を理解することができる。  
 ことができる社会を目指して、個人と社会とのかかわりを踏まえて考えることができる。

予想される生徒の意識	評価場面				
<p>1 これまでの学習の振り返り                  【これまでの話し合いで意見が分かれていることは……】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     まじめに準備してきた人とそうでない人に違いができるのは当然なので、皆年金ではなくて、自己責任にすべきではないか。                 </div> <p>2 現状の国民年金制度の再検討                  【皆年金による国民年金制度は本当に必要なだろうか……】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">皆年金のしくみは必要ではない</th> <th style="width: 50%;">皆年金のしくみは必要だ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆年金にすると、月額14,000円を支払うことができない人が出てくる。</li> <li>・ 若者より高齢者が多くなったら、制度として成り立たなくなる。</li> <li>・ アメリカのように私的年金を充実させれば、自己責任で何とかなる。</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢で働けない人もいるので、国民全体で扶助する制度は必要だ。</li> <li>・ 生活保護が増えて、社会保障費が増大する。</li> <li>・ 国民全体が、若いころから少しずつ保険料を支払う現在の制度は重要だ。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         【もしも国民年金制度がなかったら、どんな工夫が必要になるだろうか……】                     </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin: 0 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老後の資金を有利な条件で貯蓄できるようにする。</li> <li>・ 老人医療費を無料にする。</li> <li>・ 高齢者が収入を得やすいようにする。</li> <li>・ 生活保護をもっと幅広く認定できるようにする。</li> </ul> </div> </div>	皆年金のしくみは必要ではない	皆年金のしくみは必要だ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆年金にすると、月額14,000円を支払うことができない人が出てくる。</li> <li>・ 若者より高齢者が多くなったら、制度として成り立たなくなる。</li> <li>・ アメリカのように私的年金を充実させれば、自己責任で何とかなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢で働けない人もいるので、国民全体で扶助する制度は必要だ。</li> <li>・ 生活保護が増えて、社会保障費が増大する。</li> <li>・ 国民全体が、若いころから少しずつ保険料を支払う現在の制度は重要だ。</li> </ul>	評価場面 1
皆年金のしくみは必要ではない	皆年金のしくみは必要だ				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆年金にすると、月額14,000円を支払うことができない人が出てくる。</li> <li>・ 若者より高齢者が多くなったら、制度として成り立たなくなる。</li> <li>・ アメリカのように私的年金を充実させれば、自己責任で何とかなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢で働けない人もいるので、国民全体で扶助する制度は必要だ。</li> <li>・ 生活保護が増えて、社会保障費が増大する。</li> <li>・ 国民全体が、若いころから少しずつ保険料を支払う現在の制度は重要だ。</li> </ul>				
<p>3 高齢者にとって、安心して生活できる社会とは                  【日本が現在の年金制度を取り入れたのはなぜだろう……】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の生活は家族で守ってきたが、核家族化が進んだことで国としての制度が必要となった。</li> <li>・ 国民すべてが年金制度に加入することが大切なので、主婦や20歳以上のすべての人にも保険料を負担してもらおうことになった。</li> </ul> </div> <p>【高齢者の思いは……】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちも一生懸命働いて納めてきたので、年金はしっかりもらいたい。</li> <li>・ まだまだ働くことができるので、働きたい。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 財源と給付金額だけでなく、高齢者の生きがいにも配慮したしくみが必要だ。             </div>	評価場面 1				
<p>4 だれもが安心できる社会をつくるために</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 【社会保障制度のあり方を考える場合……】                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給付の水準や制度の安定、財源確保をはかる。</li> <li>・ 自分も社会的弱者になる可能性がある。</li> <li>・ 保障を受ける人たちの気持ちにも配慮してあげたい。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; margin-top: 10px;">                 【だれもが安心して生活できる社会をつくるために】                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税を集めたり配分したりする国や地方公共団体の役割は大きいから、それを見守る必要がある。</li> <li>・ 私たちも社会の一員としてかかわっていく必要がある。</li> </ul> </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin: 0 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 高齢者の問題は、自分たちの将来にかかわる大切な問題だ。社会全体で社会保障について考えていく必要がある。             </div>	評価場面 2				

### (3) 評価の観点と方法

評価の観点	評価の場面と方法	学習活動における評価規準
知識・理解	【場面1】 プリントへの記述，話し合いでの発言内容から分析	国民の生活と福祉の向上を図るために，国や地方公共団体が果たしている役割について理解することができる。
思考・判断	【場面2】 解決策の内容，話し合いでの発言内容から分析	わが国の社会保障制度のあり方について，だれもが安心して生活することのできる社会を目指して，個人と社会とのかかわりを踏まえて考えることができる。

## 7 資料

### (1) アメリカ合衆国の社会保障制度

概要	アメリカでは，原則として政府が個人の生活に干渉しないという自己責任（自助）の精神が尊重されており，わが国の生存権のような規定がないことから，先進国中唯一，国民全体を対象とする公的医療保障制度がなく，社会福祉・保健医療サービスの分野では，州政府が政策運営の中心的役割を果たすものが多い。
社会保障制度	代表的な制度としては，4,000万人以上の国民の所得保障を行っている老齢・遺族・障害年金（OASDI），老齢年金受給者，障害年金受給者及び慢性腎臓病患者を対象とするメディケア，公的扶助制度として老齢者及び障害者を対象とする補足的所得保障（SSI）及び児童を扶養する家庭を対象とした扶養である要扶養児童家庭扶助（AFDC）があり，公的扶助受給者等を対象にメディケイドとよばれる医療扶助制度が設けられている。
問題点	アメリカにおける公的医療制度は，メディケアとメディケイドの2種類で，これらに該当しない一般の人々は，民間の保険会社より医療保険を商品として購入しなければならない。無保険者（約4,400万人）問題の解決に向けて，全国民対象の公的医療保険制度の成立が待たれている。また，老人介護問題の地域格差も問題となっている。

《参考文献「米国の社会保障制度」吉平 龍司》

### (2) スウェーデンの社会保障制度

#### 児童・女性の生活保障

- ・就学前の子ども全員が入れる保育所が整備されている。学童保育は小学校併設。
- ・育児休暇は480日間，うち390日間は給料の80%の手当金が支給。
- ・所得に関係なく，16歳まで月額12,000円(多子加算)の児童手当が支給。
- ・18歳まで住宅手当が支給。

#### 成人の生活保障

- ・年次有給休暇制度は5週間。年休1週間を5年間積み立てると，10週間の休暇。
- ・医療制度は，税方式による公営サービスが中心。一部自己負担。

#### 高齢者の生活保障

- ・所得に比例して受給できる。国の税財源による保障年金制度もある。
- ・高齢者を寝たきりにさせない福祉サービス，ホームヘルパーが充実している。
- ・高齢者が地域で暮らせるために，在宅医療・在宅福祉が整備されている。

《参考文献「スウェーデンの家族と少子化対策への含意」内閣府経済社会総合研究所》